

まなぼっとだより

第10号 2007年8月

すこやか子育て講座(調理実習)



～幼児の食について考える(7/4・11)～

『文化事業の現場』

財団法人釧路市民文化振興財団文化事業主幹 中田 幸吉



今年も、様々な文化事業を市民へ提供しています。そこには、多くの市民の協力のもと実現した事業。市民の日々研鑽した文化を応援サポートして行われる事業など、私ども文化事業を担う者として、釧路文化の向上のために幾分かでも寄与できるように日々心がけております。

また、低廉で且つ優れた芸術・文化を市民へ提供していくことも、私どもの使命として開催しております。北海道という遠隔地ではどうしても本州他都市と違い、航空運賃、宿泊、運送費等割高になること。更に、日程その他についても余計にかかるなどの理由で、公演に二の足を踏む企画会社もあり、釧路公演を実現するには障壁となるため苦慮しています。夏が終わると同時に秋から冬にかけ、この障害を乗り越えて次年度事業を選択し、具現化に向け企画元との折衝を進めて行くこれからの私どもの正念場です。

もうすぐ芸術の秋、文化芸術の香り高い釧路が活気づく季節となります。劇団東京乾電池釧路公演、札幌交響楽団定期公演はじめ、川島成道ヴァイオリンコンサート、佐渡國「鼓動」公演、N響メンバーによる釧路弦楽四重奏団公演など市民との協働による事業。そして、札幌コンサートホール「キタラ」様の協力により北海道公演が可能となり実現した、チェコのブラジャーク弦楽四重奏団釧路公演。更に、素晴らしいコールドバレエがこの釧路にて舞う、ウクライナ国立キエフ・バレエ「白鳥の湖」公演と、11月までの間、市民文化会館と生涯学習センターを会場に様々な芸術が催されます。

これからも、ますます釧路が文化都市として息づいて行けますように、市民と共に素晴らしい芸術文化の提供に努めていきます。

(友の会)「七宝教室友の会」第1・3木曜日 10:00～

地階 工芸スタジオC 代表 越智 絹子

会の結成は昭和50年代、平成6年に、活動場所を日進堂書店からまなぼっとに移した。「集まるのは、作る楽しみの他にもある。」とは全員の意見。このように仲の良い6人だが、作品作りには真摯な姿勢と厳しい目を持ち、切磋琢磨を忘れない。「七宝焼きを始めた頃は、アクセサリーづくりの技術を磨いていたが、今は、絵画七宝が中心。七宝焼きも進歩している。」と、ベテランの青木さん。七宝焼きの歴史は古く、刀の鏝や襖の取っ手にも使われていたという。

一緒に楽しむ仲間を募集中。連絡は、代表 52-0273まで。



(自主サークル)「ヨーガ健康教室」

主宰 村田 道映

「約五千年前、インドの原始仏教の神々に捧げる踊りがヨーガの原点。一弟子相伝で、口伝なので、爆発的なブームは望めなかった。」のが昔のヨーガの特徴という。「ヨーガをすれば体が変わる。体が変われば心が変わる。心が変われば運命も変わる。」が、村田教室のキャッチフレーズ。毎週木曜日は、午前10時から正午までと午後7時から9時までの2回、まなぼっと幣舞の4階和室で、水曜日は弟子屈で健康教室を開いている。月謝は、全て込みで3,500円。「タオル1枚持ってくればできますよ。」とのこと。問い合わせは、25-8609(午後6時以降)まで。



サークル紹介

(友の会)「陶陶(すいとん)の会」

毎週土曜日 18:30～地階工芸スタジオB

代表 原前奈々子(91-9400)

「とにかく、土から何か創ることがとっても楽しい。」と、代表の原前さん。会員の皆さんも異口同音に、「楽しくて、あっという間の10年だった。」と言う。「まなぼっと陶芸教室」修了生でサークルを結成した平成8年4月から数えて11年目。最高74歳から20歳代まで15名の会員が集うサークルに。毎年、釧路市民展や友の会作品展に作品を出している。目下、サークル展の自主開催が課題だが、師匠の日向成夫先生が体調を崩して休んでいるので実現は難しそう。

「昼間働く仲間同士で、教えあいながらがんばっています。一緒にものづくりを楽しみたい方は、お電話を。」

様子を
知りたい方、
見学希望の方、
原前さんまで。



(自主サークル)「九重書道教室」

主宰 武石 九重

練習 毎週火曜日 14:00～16:00
19:00～21:00
会場 「まなぼっと幣舞」4階 和室
月謝 3,500円(会場費・本代は別途徴収)

「美の原理は古典にあり」が、九重先生のモットー。教室では、中国と日本の古典をしっかりと学ぶことができる。現在、両教室あわせて6人が学んでいる。「少数でがんばっています。書に興味のある方は連絡ください。」

武石九重携帯～090-6993-7500

会員で、最近師範に合格した続橋尚園さんは、「私達は、毎週火曜日、練習をしています。」



九重先生の指導はやさしく、時には楽しいです。和室は広く、外の眺めも素晴らしいので、大きな気持ちで作品に臨めます。」と話してくれました。



(月曜日休館)

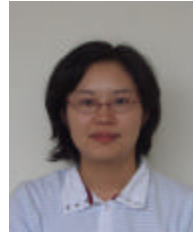
生涯学習センター(まなぼっと幣舞)

〒085-0836 釧路市幣舞町4番28号

TEL(0154)41-8181

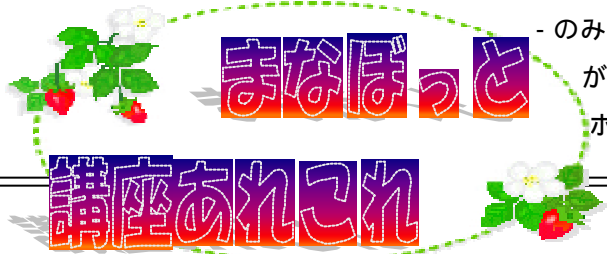
FAX(0154)41-8182

子ども体験隊の活動について



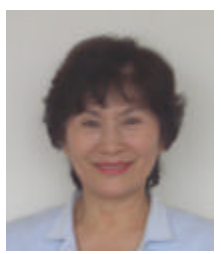
生涯学習推進アドバイザー 浄土 藍理

今年度は、市内の小学校から、4～6年生21名が集まりました。班長などの係を決めて協力し合って活動しています。じゃがいもなどを育てる農園作業が活動の中心です。種芋や種を植え、雑草を抜いたりしながら班毎に成長を記録しています。収穫は8月25日の予定です。今年は暖かい日が続く、作物は順調に育っています。9月に行われる収穫祭では、収穫した作物を調理して食事会をします。また、成長の記録をもとに活動の様子をまとめ、11月に行われるまなぼっと幣舞の学習フェスティバル「まなトピア2007」で発表する予定です。その他に、自然散策や施設見学、宿泊体験などもします。9月8日(土)・9日(日)に音別町体験学習センター「こころみ」で1泊2日の宿泊学習を予定しています。せっけんづくりやふき紙づくりをしたり、自然散策、星空探検を予定しています。子ども達は、収穫祭と宿泊学習を楽しみに元気に活動しています。子ども達の楽しい思い出のために、アドバイザーのみならず、財団の関係者が一丸となって強力にサポートしています。



子どもチャレンジ 「裁判員制度を学ぼう」

生涯学習推進アドバイザー 山本春栄



7月31日(火) 市民学園講座「子どもチャレンジ～裁判員制度を学ぼう」を行いました。近い将来始まる裁判員制度についての理解が主な目的です。当日は、裁判所の仕事について、アニメのビデオを見た後、現職の裁判官、検察官、弁護士の方たちから、「私の仕事」についてのお話がありました。それらに対し、子供たちからは積極的に質問が出され、興味の深さを感じられました。その後、釧路刑務所や検察庁を見学し、弁護士会館で昼食をとりました。



当日は、裁判所の仕事について、アニメのビデオを見た後、現職の裁判官、検察官、弁護士の方たちから、「私の仕事」についてのお話がありました。それらに対し、子供たちからは積極的に質問が出され、興味の深さを感じられました。その後、釧路刑務所や検察庁を見学し、弁護士会館で昼食をとりました。

午後からは、裁判所に移動し、「弁護人チーム」と「検察官チーム」に分かれ、現職の弁護士、検察官の方たちの助言をいただきながらの「裁判ゲーム」が行われました。「裁判ゲーム」では、子供たちが検察官、弁護士の役割を演じました。事前に用意されていた資料から、それぞれに有利な証拠を話し合いで選び、本物の法廷で現職の裁判官の下、「弁護士」や「検察官」になりきって自分の意見を堂々と発表していました。改めて子供たちの可塑性の素晴らしさを感じた一日でした。



子供たちは、この「裁判ゲーム」を通じて、人を裁く難しさ、事実認定の難しさを感じると共に、裁判への興味を更に深めたのではないかと考えています。



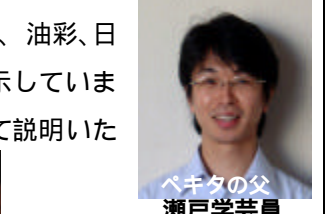
まなぼっと幣舞の3階は「釧路市立美術館」です。



美術館への入り口は、エレベーターと2階階段の2コース。3階でエレベーターを降りると、すぐ目の前に受付と記念品販売コーナーがあり、笑顔があなたをお迎えします。



ギャラリーでは、現在、「画家 岸田劉生の軌跡展」が行われています。日本に油彩を紹介した巨匠の作品をお楽しみください。ギャラリーAには、代表作の「童女図(麗子立像)」をはじめ、油彩、日本画を。Bには本の装丁作品を中心に。A・Bあわせて110点余りを展示しています。通常は学芸員が、土・日は、解説ボランティア13名が作品について説明いたします。また、夜間も開館しています。



ロビーは、来館者がくつろぐ所として、また、イベント会場としても使われています。1年に3回ほど行われる「ペキタまつり」は、大勢の親子連れで賑わいます。



館長さんにインタビューで～す。



ペ「館長さん、こんにちは。まず、4月からこれまでのご感想を。」
館「4月と5月はペキタと探検、くしろアートの空。6月と7月は絵本作家展で、館内が子ども達の笑顔でいっぱいでした。美術館は難しそうなどころなんて、昔の話ですね。」

ペ「次に、今年の展示やイベントの館長さんとしてのお勧めは？」
館「8月と9月は岸田劉生展です。私も中学生のとき、教科書で見た麗子像を今でも覚えていて、本物を見ることができて感激しました。北海道で初めての劉生展ですので、ぜひ大人にも子どもにも見てほしいですね。そのほか、来年3月まで、ペキタまつりや幣舞橋の展覧会もあります。」

ペ「最後に、これからどんな美術館にしていきたいですか。」
館「好きな絵に出会うって、とても素敵なことですね。美術館に来てもらって、ホッとして、また明日からがんばろうって思ってくれたらうれしいですね。もっともっと沢山の人の身近な存在になりたいと思っています。」



ペ「僕も、もっと沢山の子どもたちと仲良くしたいです。館長さん、どうもありがとうございました。」